

平成20年度

食料・農林水産業・農山漁村に関する意向調査 高齢農業者の営農や地域活動への参画 に関する意向調査結果

この調査は、平成20年8月下旬から9月上旬にかけて、2005年農林業センサス農林業経営体調査結果において62歳以上で自営農業に従事している者2,000名を対象に実施し、1,241名から回答を得た結果である。

【調査結果の概要】

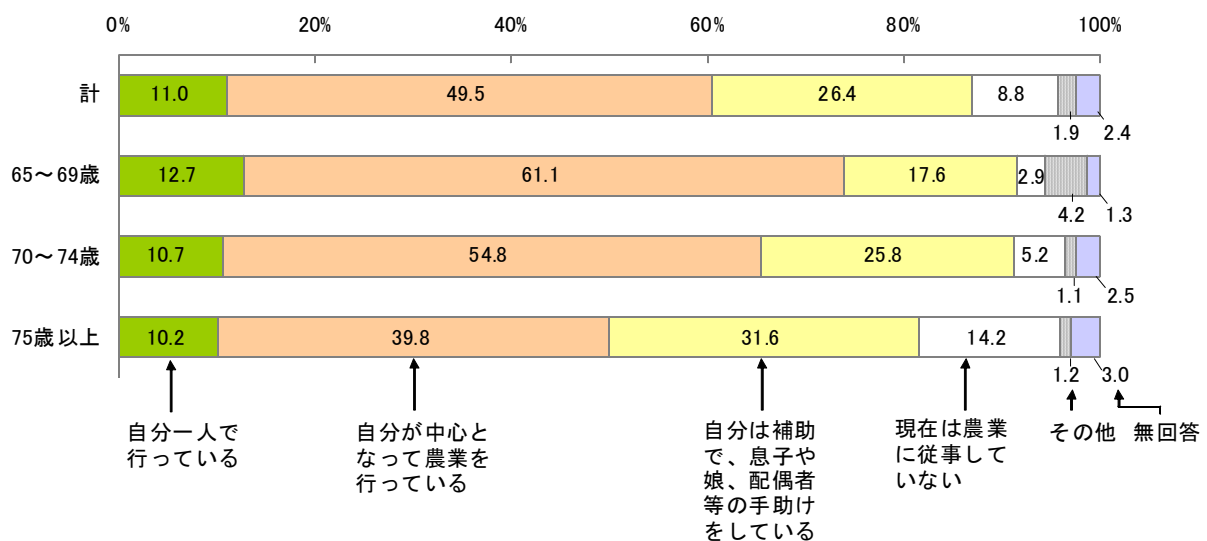
1 農業への関わり方

－「自分が中心となって農業を行っている」が5割－

ふだん農業にどのようにかかわっているかを尋ねたところ、「自分が中心となって農業を行っている」が最も高い割合(49.5%)となり、次いで、「自分は補助で、息子や娘、配偶者等の手助けをしている」(26.4%)となった。

年齢階層別にみると、年齢が若いほど「自分が中心となって農業を行っている」と回答する割合が高くなる結果となった。(P. 8 参照)

図1 農業への関わり方



(※ 年齢階層は、2005年農林業センサス農林業経営体調査時点の年齢に3歳を加算し、本意向調査実施時期の年齢に置き換えたものである。(以下、同じ。))

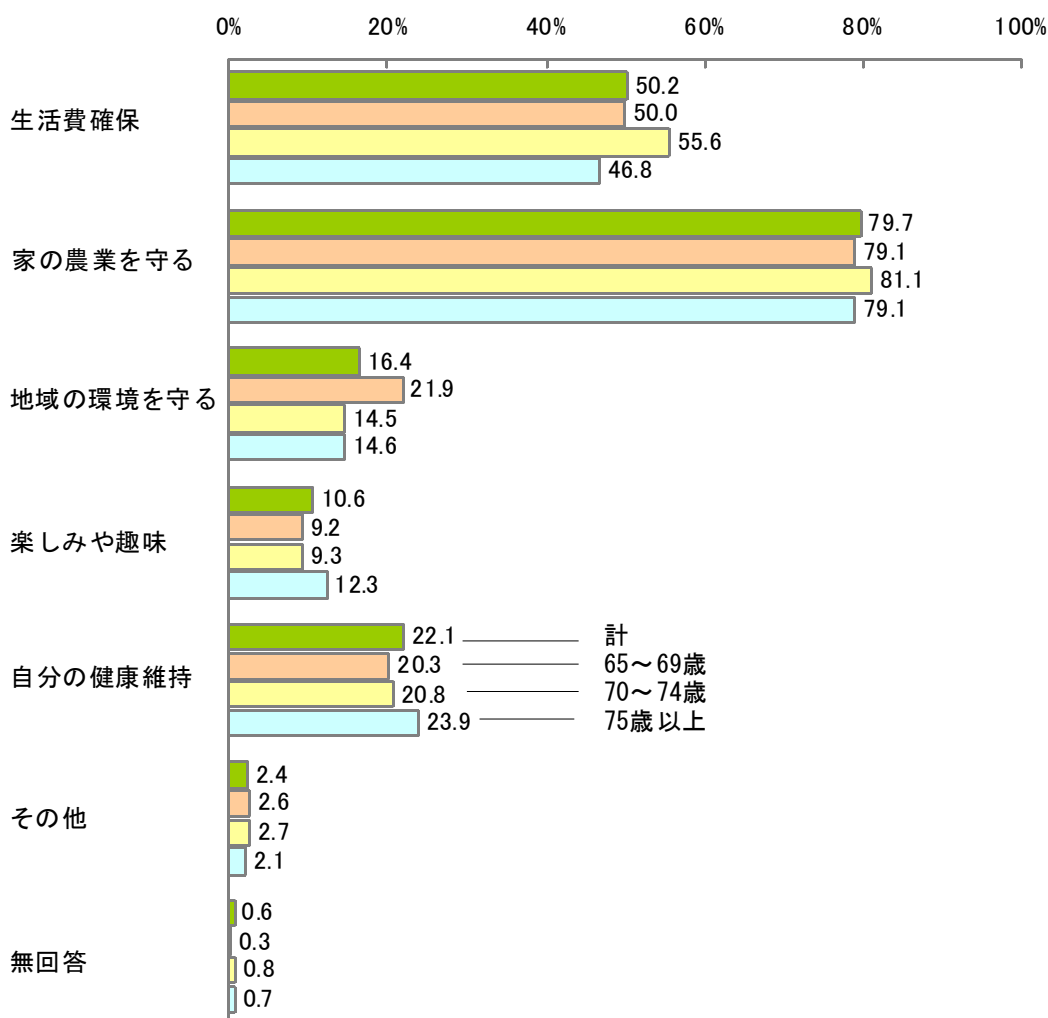
2 農業を行う又は行っていた理由（複数回答（2つまで））

－「家の農業を守る」が8割－

農業を行う又は行っていた理由について尋ねたところ、「家の農業を守る」が最も高い割合(79.7%)となり、次いで、「生活費確保」(50.2%)、「自分の健康維持」(22.1%)となった。

年齢階層別にみると、いずれの階層においても「家の農業を守る」及び「生活費確保」と回答する割合が高くなった。(P. 9 参照)

図2 農業を行う又は行っていた理由（複数回答（2つまで））



3 今後（おおむね5年間）農業経営をどのようにしたいか

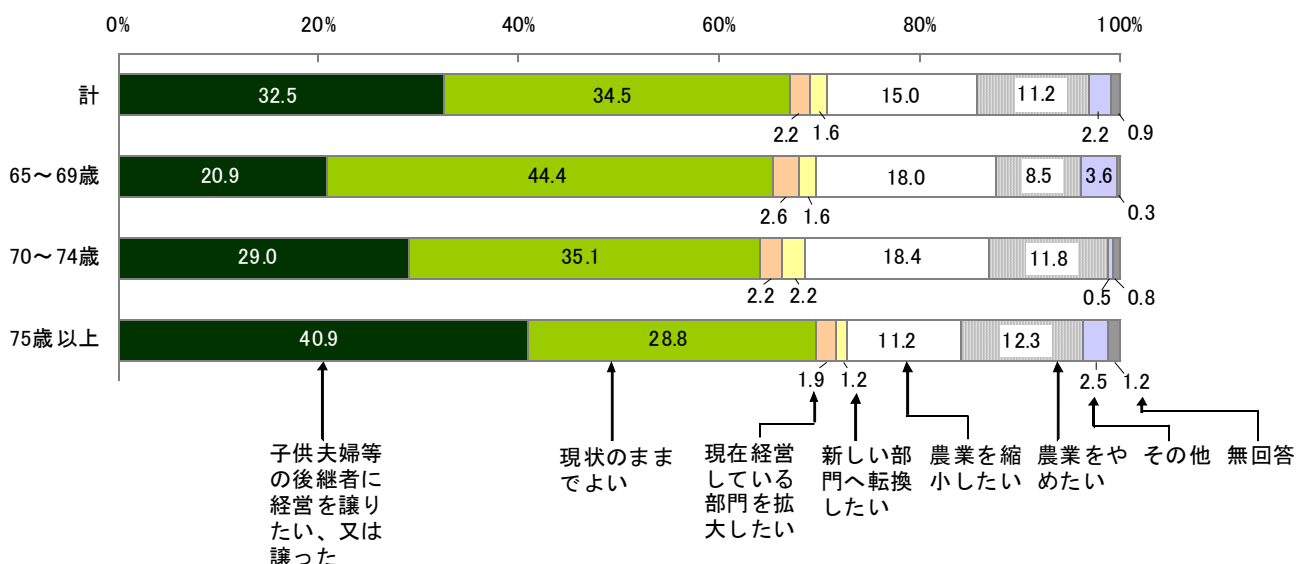
－「現状のままでよい」が3割、一方で「現在経営している部門を拡大したい」及び「新しい部門へ転換したい」はほとんどいない－

今後（おおむね5年間）農業経営をどのようにしたいかについて尋ねたところ、「現状のままでよい」が最も高い割合（34.5%）となり、次いで、「子供夫婦等の後継者に経営を譲りたい、又は譲った」（32.5%）、「農業を縮小したい」（15.0%）となった。

年齢階層別にみると、年齢が高いほど「子供夫婦等の後継者に経営を譲りたい、又は譲った」と回答する割合が高くなった。

一方で、いずれの階層においても「現在経営している部門を拡大したい」及び「新しい部門へ転換したい」と回答する割合が低くなった。（P. 10～11参照）

図3 今後（おおむね5年間）農業経営をどのようにしたいか



4 行っている又は行ってみたい農業生産関連のグループ活動（複数回答（該当するものすべて））

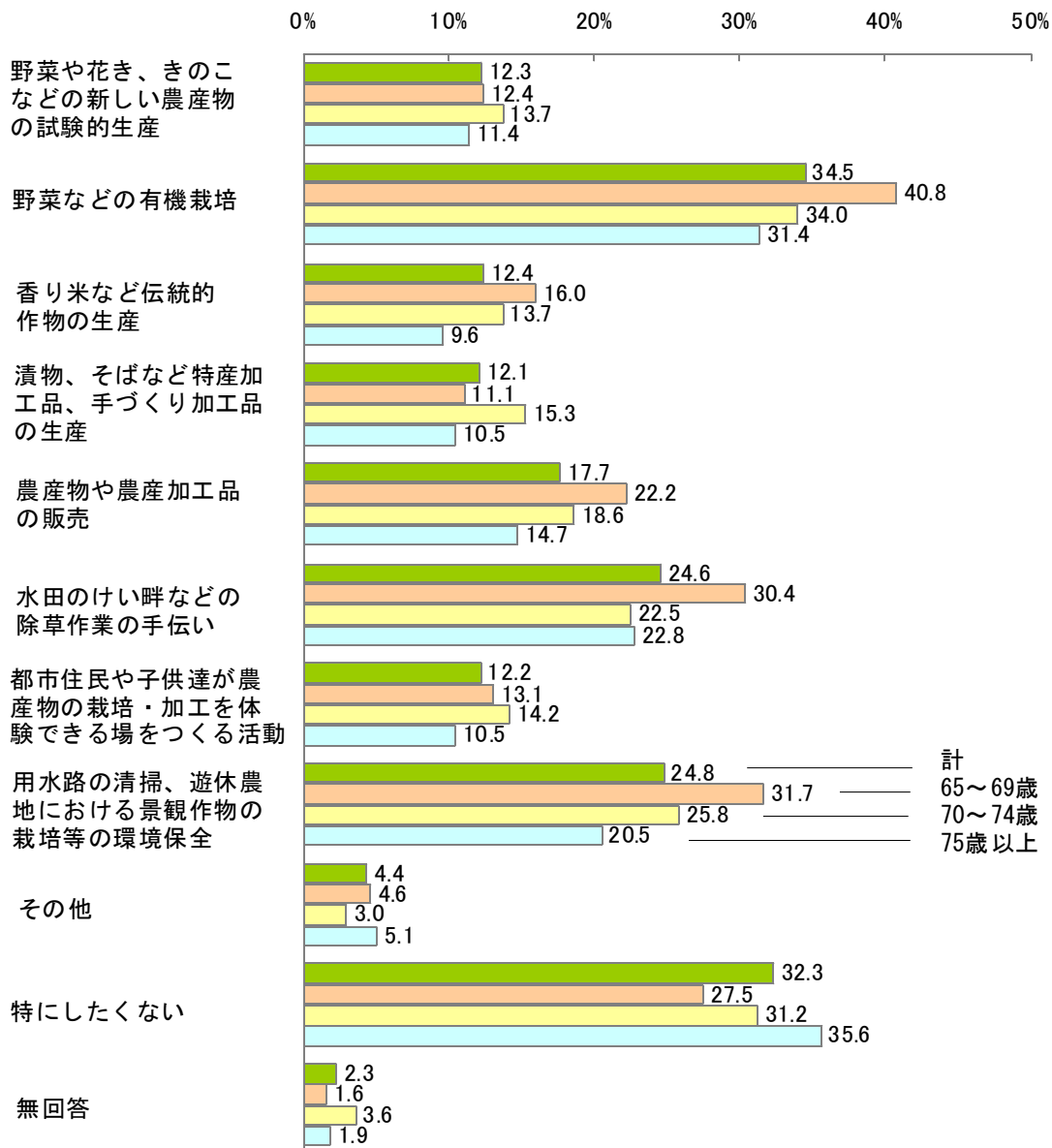
－「野菜などの有機栽培」が3割、一方で「特にしたくない」が3割－

行っている又は行ってみたい農業生産関連のグループ活動について尋ねたところ、行っている又は行ってみたいものとして、「野菜などの有機栽培」が最も高い割合(34.5%)となり、次いで「用水路の清掃、遊休農地における景観作物の栽培等の環境保全」(24.8%)、「水田のけい畔などの除草作業の手伝い」(24.6%)となった。

一方で、「特にしたくない」と回答する割合が32.3%となった。

年齢階層別にみると、年齢が若いほど農業生産関連のグループ活動を行っている又は行ってみたいと回答する割合が高い傾向となった。(P. 12～13参照)

図4 行っている又は行ってみたい農業生産関連のグループ活動（複数回答（該当するものすべて））



5 行っている又は行ってみたい地域社会関連のグループ活動（複数回答（該当するものすべて））

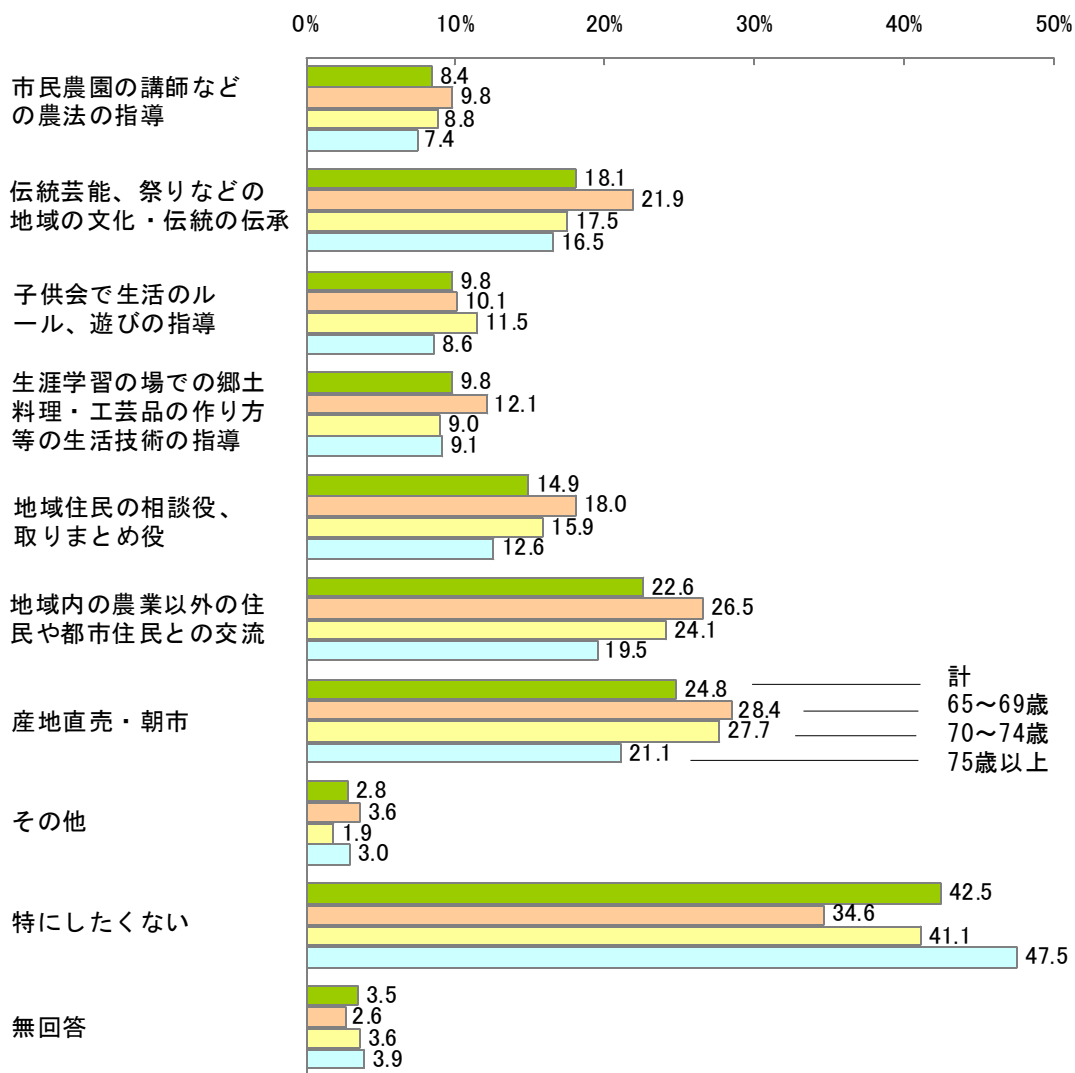
－「産地直売・朝市」及び「地域内の農業以外の住民や都市住民との交流」がそれぞれ2割、一方で「特にしたくない」が4割－

行っている又は行ってみたい地域社会関連のグループ活動について尋ねたところ、行っている又は行ってみたいものとして、「産地直売・朝市」が最も高い割合(24.8%)となり、次いで「地域内の農業以外の住民や都市住民との交流」(22.6%)となった。

一方で、「特にしたくない」と回答する割合が42.5%となった。

年齢階層別にみると、年齢が若いほど地域社会関連のグループ活動を行っている又は行ってみたいと回答する割合が高い傾向となった。(P. 14～15参照)

図5 行っている又は行ってみたい地域社会関連のグループ活動（複数回答（該当するものすべて））



6 これから地域農業・農村に関連した活動を行う場合、必要な条件(複数回答(2つまで))

－「軽作業程度の労働であること」及び「時間や期間にあまり拘束されないこと」がそれぞれ4割－

これから地域農業・農村に関連した活動を行う場合、必要な条件について尋ねたところ、「軽作業程度の労働であること」が最も高い割合(43.6%)となり、次いで、「時間や期間にあまり拘束されないこと」(38.1%)、「活動場所が自宅からあまり離れていないこと」(33.6%)となった。

年齢階層別にみると、65歳～69歳において「時間や期間にあまり拘束されないこと」と回答する割合が高くなり、70～74歳及び75歳以上において「軽作業程度の労働であること」と回答する割合が高くなった。(P.16～17参照)

図6 これから地域農業・農村に関連した活動を行う場合、必要な条件(複数回答(2つまで))

